

公益社団法人日本臨床細胞学会  
2023年度第4回理事会 議事録

日時：2024年3月9日(土) 10:00 ~ 12:30  
場所：WEB開催

役員総数： 43名(理事 40名、監事 3名)

出席総数： 理事 32名

(理事) 岡本 愛光、阿部 仁、有廣 光司、板持 広明、伊藤 仁、伊藤 潔、井上 健、大平 達夫、川名 敬、近内 勝幸、齋藤 豪、佐藤 之俊、澁木 康雄、進 伸幸、田畑 務、都築 豊徳、豊田 進司、羽場 礼次、藤井 多久磨、松浦 祐介、三上 芳喜、宮城 悦子、森井 英一、森定 徹、森谷 卓也、柳田 聡、山上 亘、山口 倫、山下 博、横山 正俊、横山 良仁、若狭 朋子

出席総数： 監事 3名

(監事) 長村 義之、佐々木 寛、土屋 眞一

(細胞診専門医会会長) 青木 大輔

(肺癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ) 平林 健一

(総務委員会幹事) 片岡 史夫

(総務委員会幹事) 星 利良、和田 直樹

(制度審議委員会幹事) 佐々木 陽介

(陪席) 竹中 将貴

(中田公認会計士事務所) 中田 ちず子

本理事会は、定足数の半数以上(理事 40名中 32名出席)を満たしたので有効に成立した。テレビ会議システムにより、出席者の音声は即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会すると同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態が確認され、議題の議事に入った。

議長： 進 伸幸 総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第 23 条第 3 項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については\*印を付す。

本理事会の開催にあたり、\*岡本 愛光 理事長、\*森井 英一 副理事長[総括、事務局運営、編集、認定試験、検査士、国際交流、IAC、渉外]、\*田畑 務 副理事長[教育、学術、財務、専門医、臨床研究]の挨拶および報告が行われた。

\*理事長報告・挨拶(岡本 愛光)

本日の本年度第4回理事会では、予算案および事業計画などの重要案件があり、ご審議をよろしくお願ひしたい。長村 義之 監事が American Society of Cytopathologyにて2023 International Achievement Awardを受賞されたことを報告させていただく。

\*副理事長報告(森井 英一、田畑 務)

森井 英一 副理事長： 3月11日より評議員の申請が開始されるので、よろしくお願ひしたい。

田畑 務 副理事長： 公益財団法人化 10周年記念事業、子宮頸癌のHPV単独検診への対処に尽力

したい。

前回（2023年度第2回理事会）議事録について  
2023年度第3回理事会の議事録確認が行われた。

総務庶務報告（2024年02月20日現在）

全会員数：13,144名

（正会員 5,669名、準会員 7,216名、名誉会員 40名、功労会員 205名、図書会員 14件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,246名（実数）

（認定：細胞診専門医 4,020名、細胞診専門歯科医 120名）

FIAC：75名 MIAC：19名

細胞検査士数：8,210名（実数）（認定 11,426名）

CT(IAC)：3,922名

物故会員（2023年10月21日～2024年02月20日）

功労会員 阿部 庄作 殿

山内 一弘 殿（(株) ビーシーエル ジャパン 細胞診断部）

正会員 高橋 洋平 殿

岡部 義信 殿（久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門）

板倉 淳哉 殿（倉敷中央病院 病理診断科）

田中 健次 殿（(株) 東京セントラルパソロジーラボラトリー

検査本部細胞診断部門細胞診断チーム）

準会員 斎藤 豊 殿（(株) ビーシーエル ジャパン）

黙禱

大会準備状況

第65回春期大会（森井 英一、大阪国際会議場、2024年6月7日（金）～9日（日））、第63回秋期大会（進 伸幸、幕張メッセ、2024年11月16日（土）～17日（日））、第66回春期大会（田畑 務、京王プラザホテル、2025年6月27日（金）～29日（日））、第64回秋期大会（有廣 光司、広島国際会議場エリア、2024年11月29日（土）～30日（日））、第67回春期大会（宮城 悦子、パシフィコ横浜ノース、2026年6月12日（金）～14日（日））の準備状況に関する報告が行われた。

【常置・各種委員会から報告】

総務委員会（委員長 進 伸幸）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 学会内、他学会、他団体との調整を行い、円滑に学会運営が行われるようにする。
2. 理事候補者選出に関するオンライン選挙（全国・地方）を初めて実施するために確実な準備を行っていく。

〔報告事項〕

1. 学会内、他学会との調整を行い、円滑に学会運営が行われるよう対処している。

2. 理事候補者選出に関する電子投票（全国・地方）を初めて実施するために、以下の作業を進行中である。

① 前回 2023 年 11 月の理事会において承認していただいたように、施行細則の本文への追記・附則への追記は簡略化した内容にとどめ（役員等選任に関する施行細則改定案、改定対応表）、詳細は別途、『理事候補選挙に関する申し合わせ』という内規に記載することとし、現在制度審議委員会にて審議いただいている。前回理事会で承認いただいたように、制度審議委員会で審議された結果をもって、施行細則は 2023 年 11 月 3 日付けの改定となり、申し合わせは 2023 年 11 月 3 日付けの制定とする。

② 2023 年 12 月 27 日に、理事候補者選挙の業務を委託するワオワールド社と直接面談にて諸問題を検討した（森井副理事長、進、事務局、ワオワールド社）。WEBCAS システムは現在マイページとして使用しているシステムで、国内 8000 の大手企業、事業所が採用されており、障害、外部侵入などは常時監視されており、信頼性・安全性に問題はないと考えられる。この WEBCAS システムは高い完成度と多くの利用実績があること、ユーザーの利用条件を反映できるセミオーダー形式であること、から、本学会ではマイページ以外に資格更新申請、セミナー・ワークショップ参加受付、委員会のアンケート調査での使用経験もあり、電子投票の機能設計も行うことができる。ただ一時的に契約外のデータ領域を使用場合は月単位で使用料が必要となる。電子投票は全国区、地方区（仮に全地方区が選挙が必要になると仮定して）で行うため最大 49 万円の使用料金と想定される。事務局でデータ管理できるため、迅速な対応が可能であり、またデータのアクセス権が WOWORLD と事務局に限定されるため、セキュリティの面でも安全である。450 名強の評議員の所属地域は地方区理事選挙の前に個々の有権者に紐づけておき、ログインすると自動的に所属地方区の投票のページに入るように設定することは可能であり、他の地方区選挙に投票することは防止できる。細かい点についてワオワールド社に数点要望を申し入れ、今後、事務局と打ち合わせを継続していく予定である。

3. ヤマトの業務が 2 月 1 日から大幅に限定され、封書の発送は郵便扱いになった。（これまでヤマト運輸の DM 便（1 通 110 円）を使用していたが 2024.1 月末で廃止となり、今後は普通郵便（1 通 140～220 円）を利用することになる。）

今後は事務局業務を以下の様に進める。

- ① 一層の電子化を行う。（WEB 利用）
- ② 認定書など、発送が不可避なものは業者への外託とする
- ③ 総会の委任状回収は WEB で行う。（実施については中田会計事務所に問い合わせ中）

〔審議事項〕

なし

情報処理委員会（委員長 川名 敬）

〔事業計画〕

1. 本会ホームページの管理を行う。
  - ① ホームページ掲載内容の変更や更新
  - ② 新規コンテンツの掲載の可否の審査

- ③ リンクに関する審議
2. 転載の許諾に関する審議  
 本会ホームページの改訂を行う。
  - ① 改訂計画が立案されていることから、その詳細を審議・決定
  - ② 改訂作業を開始する
  - ③ 適宜、改訂に関する意見を役員、会員から求める
  - ④ 新しいコンテンツの提案を検討する

〔報告事項〕

1. 日本臨床細胞学会「公益社団法人化 10 周年記念誌」の発送目的に、作成した印刷会社より、学会会員の送付先一覧の開示請求を受け、それを承認した
2. 日本臨床細胞学会 HP に KN インターナショナルという会社（英文翻訳会社）からのバナー広告の希望を受けるがお断りした
3. 本年度は、本会ホームページ改訂を実施したい。改訂計画が立案されていることから、その詳細を審議・決定し、改訂作業を開始する

〔審議事項〕

なし

学術委員会（委員長 前田 一郎）【資料なし】

（委員長が欠席のため、森谷 卓也理事から報告がなされた。）

〔事業計画〕

1. 2024 年度 学会賞・技師賞・班研究課題、最優秀論文賞の募集及び選考を行う。

〔報告事項〕

1. 2023 年度最優秀論文賞の募集  
 応募期間：2024 年 1 月 12 日（金）～2 月 14 日（水）  
 和文論文 3 件・英文論 4 件の応募。  
 2024 年 3 月 15 日（金）締め切りで現在、学術委員会 6 名・編集委員会 5 名の審査委員による審査が行われている。
2. 公益社団法人日本臨床細胞学会班研究課題選考に関する施行細則一部改訂

〔審議事項〕

なし

計理委員会（委員長 山下 博）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 学会の経理について、正しく運営されるよう確認を行う。
2. 決算案、予算案の作成を行い、春・秋と 2 回の監査会を行い会員に報告をする。
3. 経理基準を確認し、内容について必要に応じて修正・更新を行っていく。

〔報告事項〕

1. 2024年度予算案の作成を行った。
2. 2024年4月に、2023年度の決算を中心とした監査会を開催する予定である。
3. その他

〔審議事項〕

なし

編集委員会（委員長 都築 豊徳）【資料1】

〔事業計画〕

1. 年間6回の電子ジャーナルの刊行、依頼原稿を予定（編数未定）。
2. 春期大会、秋期大会開催中に2回、それ以外に4回の編集委員会を開催予定。
3. 編集委員会で独自に特集を企画し、その領域に合致する論文の投稿を呼びかける。
4. 第64回日本臨床細胞学会総会に於いて、演題の一部を論文化する事業に関して試験運用を行って頂き、学術集会終了後、検証を行う。現状では投稿者は2名のみ。
5. 参考事項：科学技術振興機構（JST）より日本臨床細胞学会雑誌をJ-STAGE Dataに組み入れることにより、open journal化を行う打診が来ている。既に担当理事と担当者との面談が終了している。今後は編集委員会全体会議にて、その方向性を検討することを考えている。
6. 参考事項：日本臨床細胞学会として、典型的な細胞画像を提供する場を設けることを検討して頂きたい。ホームページ作成であると、費用などが掛かり、サーバー容量が問題となる。臨床細胞学会雑誌に特集号を組み、典型的な細胞像を提供する項目を作成し、その内容をJ-STAGE Data上にアップすれば、上記の問題点は解決可能と考える。今後の方向性については編集委員会全体会議を行い、その実行可能性を検討したいと考えている。

〔報告事項〕

1. 編集作業中の投稿論文は月4から6報で推移している。（資料1）

〔審議事項〕

なし

質疑

・佐藤 之俊 理事：現在、雑誌はJ-STAGEでopen journal化されている状態であるが、JSTでのopen journal化との違いは何か？

→J-STAGEのものをJSTへ移行する形であると認識しており、大きな問題はないと考える。（都築 豊徳 委員長）

・佐藤 之俊 理事：細胞学会と肺癌学会から、喀痰細胞診の像をホームページに掲載している。こういうものを特集の形で組むことによって、利用して提供可能ということか。

→そういうことになる。ストレージの問題が解決でき、経費削減にも繋がると考えている。また、日本臨床細胞学会雑誌の名前が多くの人目に触れることにもなると考える。（都築 豊徳 委員長）

・川名 敬 理事：一度、情報処理委員会の方でも検討させていただきたい。

→ある程度方向性が固まったところをお願いしたい。(都築 豊徳 委員長)

## 細胞診専門医委員会 (委員長 近内 勝幸)【資料なし】

### 〔事業計画〕

1. 令和 5 年度教育研修指導医新規申請および資格更新
2. 令和 6 年度細胞診専門医資格更新
3. 令和 6 年度細胞診専門医資格認定試験

### 〔報告事項〕

1. 令和 5 年度細胞診専門医資格認定試験

令和 6 年 2 月 3 日 (土) に AP 浜松町で実施した。昨年度と同様にバーチャルスライドを用いた検鏡試験と、印刷物による細胞像・筆記試験で実施した。総合科 131 名、歯科 6 名が受験した。合格率は総合科 83.9%、歯科 50%であった。採点システムのバージョンアップにより試験終了後短時間で採点、分析が可能であった。

2. 令和 6 年度細胞診専門医資格認定試験

令和 6 年度の細胞診専門医資格認定試験は令和 7 年 2 月に予定している。会場は AP 浜松町を予定している。細胞診専門医試験委員会委員長は、令和 5 年度と同様、細胞診専門医委員会委員長が兼任する。

3. 令和 5 年度細胞診専門医資格更新

今年度の対象者ナンバーは、594-683、1006-1101、1309-1386、1588-1646、1877-2028、2367-2476、2766-2849、3138-3222、3501-3612、8035-8040、8061-8074 である。5 年毎更新の新単位制度による 4 回目の資格更新となる。昨年同様に、資格更新申請用フォーマットによる web 申請とした。令和 6 年 2 月 24 日 (土) に資格更新審査委員会を開催した。全更新対象者 748 名中、更新可 663 名 (88.6%)、前回保留更新で今回 60 単位以上取得で更新可 6 名 (0.8%)、単位充足要審査 2 名 (0.3%)、単位不足要審査 17 名 (2.3%)、未申請 38 名 (5%)、更新辞退 11 名 (1.5%)、退会・退会申請中 11 名 (1.5%) となった。未申請者には書類提出を督促する。

4. サブスペシャルティ領域専門医について

専門医機構のサブスペシャルティ認定について、本学会は学会認定機構承認としてサブスペシャルティ申請を、日本病理学会を通して令和 4 年 9 月に行い日本専門医機構が受理した。その後進展がなく経過していたが、令和 5 年 8 月 29 日に第 1 回機構認定サブスペシャルティ領域懇談会が開催された。サブスペシャルティ専門研修細則が改定され、機構が指定するカテゴリー1、連絡協議会が指定するカテゴリー2、連絡協議会が認定するカテゴリー3 に分類され、再申請後に審査される見込みとなった。本学会はカテゴリー 3 で申請する予定であるが、改訂版サブスペシャルティ領域専門研修細則が 12 月に確定したばかりであり、機構からの連絡待ちとなっている。連絡後、再申請が必要となる見込みである。

5. e ラーニングについて

e ラーニングシステムを構築し 2019 年 2 月より運用を開始した。現在、共通講習 34 コンテンツ (含 指導医講習 4 コンテンツ)、領域講習 50 コンテンツ、検査士講習 35 コンテンツが閲覧可能である。

〔審議事項〕

なし

質疑

・進 伸幸 理事：サブスペシャリティ領域専門医に関する機構からの連絡はいつごろになりそうか？

→見通しは立っていない。(近内 勝幸 委員長)

・森井 英一 副理事長：補足すると、日本臨床細胞学会の細胞診専門医はカテゴリ-3の予定である。機構側は、カテゴリ-1、2を固めた後にカテゴリ-3に着手することになるため、まだ全く動く余裕がないというのが現状のようである。

施設認定制度委員会 (委員長 長尾 俊孝) 【資料なし】

(委員長が欠席のため、若狭 朋子理事から報告がなされた。)

〔事業計画〕

1. 新規施設認定審査 (施設認定、教育研修施設認定[豊田進司 WG 長]) 申請書提出締切：2024年4月30日(火)、書類審査：2024年5月中
2. 認定施設更新審査 (認定施設、認定教育研修施設[豊田進司 WG 長]) 申請書提出締切：2024年3月29日(金)、書類審査：2024年4月中
3. 2022年度・年報提出依頼とその集計解析 (認定施設、教育研修施設) (若狭朋子 WG 長)：年報提出締切：2024年3月29日(金)
4. 2024年度・内部精度管理 (実地調査 4カ所) (浦野誠 WG 長)：内部精度管理 WG のもとで2024年度中に実施予定
5. 外部精度管理 (全認定施設でコントロールサーベイ) (湊宏 WG 長)：外部精度管理 WG のもとで、2024年度に実施予定 (2年毎に実施)
6. 2024年度委員会：教育認定施設・年報・内部精度管理・外部精度管理の各WGにて行う

〔報告事項〕

1. 2023年度 新規施設認定について  
4施設の申請があり、審査の結果、①認定2施設、②条件付認定2施設 (その後、認定済み) となった (イエローページに掲載)。
2. 2023年度 新規教育研修施設認定について 2施設の申請があり審査の結果認定された (イエローページに掲載)。
3. 2023年度 認定施設 更新状況  
全更新対象施設数：60施設、更新可：56施設(93.3%)、未完了：0施設(0.0%)、未申請：1施設(1.7%) (期限を決めて最終確認中)、更新辞退：0施設(0.0%)、廃止施設：3施設(5.0%)
4. 2023年度 教育研修施設 更新状況  
全更新対象施設数：236施設、更新可：227施設(96.2%)、未完了：1施設(0.4%) 未申請：7施設(3.0%) (期限を決めて最終確認中)、廃止施設：1施設(0.4%)
5. 2022年度 認定施設年報提出状況 (2023年7月19日現在)  
全863施設中 提出：851施設(98.6%)、未提出：12施設(1.4%)
6. 2022年度 教育研修施設年報提出状況 (2023年6月5日現在)

全 332 施設中 提出：328 施設(98.8%)、未提出：4 施設(1.2%)

7. 2023 年度・内部精度管理（実地調査 2カ所、書類調査 2カ所）：

内部精度管理 WG（浦野誠 WG 長）のもとで実施中（3 施設済み、1 施設書類未提出）

〔審議事項〕

1. コントロールサーベイ VS の Web 配信（WG 検討課題 [費用]）

審議結果⇒承認

・進 伸幸 理事：Web 化の推進というのは全て Web で行う方針か？

→全てを Web 化する方向である。予算的にも現在の DVD 作成・配布とそれほど変わらない。20 万円ほど増加すると見積もっているが、今後実際の運用についてつめていきたい。

・学会事務局：Web 化した場合は、システム作成会社がストレージを用意した上で行うことになる。元データは、本学会に帰属することになる。

細胞検査士委員会（委員長 三上 芳喜）【資料あり】

〔事業計画〕

1. 2024 年度(第 57 回)細胞検査士資格認定試験

① 一次試験は 2024 年 10 月 26 日(土)に、CIVI 研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館（大阪府大阪市東淀川区）にて実施予定。

② 二次試験は 2024 年 12 月 7 日(土)・8 日(日)に、杏林大学三鷹キャンパス（体育館）（東京都三鷹市）にて実施予定。

〔報告事項〕

1. 2023 年度(第 56 回)細胞検査士資格認定試験結果

一次試験は 2023 年 10 月 28 日(土)に CIVI 研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館にて実施し、401 名が合格した。二次試験は 12 月 2 日(土)、3 日(日)の 2 日間にわたって名古屋プライムセントラルタワー（愛知県、名古屋市）で実施され、一次試験合格者 401 名および一次試験免除者 131 名を合わせた 532 名のうち、欠席者 5 名を除く 527 名（2022 年は 474 名）が受験した。

12 月 19 日に判定会議を実施し、326 名（2022 年、245 名）を合格とした（不合格者 201 名）。合格率は 61.9%（2022 年、51.8%）であった。この結果、来年度一次試験免除者は 148 名（2022 年、141 名）となった。判定会議終了後、合格通知（二次試験成績表）を送付した。

〔審議事項〕

1. 細胞検査士資格認定試験施行細則・附則改定（細胞診技術者養成機関および細胞検査士養成施設名変更）について

審議結果⇒承認（九州保健福祉大学→九州医療科学大学）

2. 細胞検査士資格認定試験のあり方に関する WG の設置について

（試験形式、レベル、手技試験の扱い、デジタル画像の導入、解答用紙のデザイン、試験問題のチェック体制、採点外注のあり方、実施日の設定、合格発表の形式・手順などを議論する。）



審議結果⇒承認

質疑

・佐藤 之俊 理事：賛成である。ここに、CT (IAC) 試験の問題文の英文化のあり方や今後のデジタル化への対応などの検討も加えていただくことは可能か？

→もちろん可能である。本学会が関与する細胞検査士を対象とした資格認定試験は全て俎上に上げたいと考えている。現在、WG の人選を進めているところであり、次回理事会で概要を説明させていただく。(三上 芳喜 委員長)

細胞検査士資格更新審査委員会 (委員長 井上 健) 【資料なし】

〔事業計画〕

1. 2024 年度細胞検査士資格更新作業

1830-2067、2693-2912、3667-3931、4726-4941、5619-5812、6370-6573、  
7209-7449、8159-8317、9152-9364、10150-10384

※2025 年 2～3 月に更新審査予定

〔報告事項〕

1. 2023 年度細胞検査士資格更新作業

69-137、273-363、585-759、1061-1146、1558-1829、2458-2692、3458-3666、  
4453-4725、5350-5618、6204-6369、6944-7208、7877-8158、8870-9151、  
9880-10149

※2024 年 2 月 3 日に更新審査実施済

2023 年細胞検査士資格更新対象者更新状況 (2024/2/24 時点)

---

全	2096 名
更新可	1926 名 (91.9%)
条件付き更新可	10 名 (0.5%)
保留更新	1 名 (0.05%)
不備有り更新未完了	6 名 (0.3%)
未申請	67 名 (3.2%)
更新辞退	27 名 (1.3%)
退会済・退会申請中	59 名 (2.8%)

---

現在、不備有り更新未完了の 6 名については順次対応中。

未申請の 67 名はレターパックプラスにて最終意思確認をし、期限までに応答の無いものは資格失効とする。

〔審議事項〕

なし

教育委員会 (委員長 横山 良仁) 【資料 1-3】

〔事業計画〕

1. 第 87 回細胞検査士ワークショップ開催

実行委員長：佐々木 健司（JA 尾道総合病院 病理研究検査科）

〔実習〕 広島大学医学部 形態実習室 定員 60 名

実施日：2024 年 3 月 30 日（土）10：20～18：00（18：30～意見交換会）

〔講義〕 WEB 配信

視聴期間：2024 年 3 月 25 日（月）正午～4 月 8 日（月）正午

募集受付期間：2024 年 1 月 22 日（月）正午～2 月 13 日（火）正午

2. 2024 年度 各種セミナー開催予定

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第 133 回細胞検査士養成講習会	2024 年 7 月 14（日） ～26 日（金）	場所：杏林大学保健学部実習室 （井の頭キャンパス） 実行委員長：阿部 仁（がん研 有明病院） 現地実習＋現地講義、受講人 数：40 名予定
第 49 回細胞診断学セミナー	2024 年 8 月上旬予定	WEB 開催 教育委員会委員長
第 84 回細胞検査士教育セミナー	2024 年 8 月下旬予定	WEB 開催 実施委員長：仲村 武（神奈川 県立がんセンター医療技術部 検査科病理検査室）
第 88 回細胞検査士ワークシ ョップ	2024 年 8 月頃予定	場所：札幌医科大学教育研究棟 藤岡 学（札幌徳洲会病院） 現地実習＋Web 講義予定
第 89 回細胞検査士ワークシ ョップ	2025 年 2 月または 3 月予定	ハイブリッド開催 場所・実施委員長 検討中

〔報告事項〕

1. 第 4 回理事会前に教育委員会にて細胞検査士養成講習会の予算案について検討した。

〔審議事項〕

1. 細胞検査士養成講習会予算案（資料）

顕微鏡使用料の値上がりに伴い、従来の受講料 99,000 円だと細胞検査士養成講習会が赤字予算案となる。教育委員会内で検討し、今後は 105,000 円の受講料とすることを提案する。ハンドアウトを受講者各自でのダウンロード・印刷とすることにより予算削減の余地はあるが、委員会としてはハンドアウトを残したいと考えている。

資料 1：2023 年 細胞検査士養成講習会 収支

資料 2：2024 年 細胞検査士養成講習会 予算案

資料 3：顕微鏡使用料見積書

審議結果⇒承認

質疑

・岡本 愛光 理事長：ハンドアウトに関しては、受講者の年齢層を調査し、タブレット端末へのダウンロードしたものを活用する年代が中心であれば、将来的にダウンロード形式への移行を検討してもよいのではないかと？

→教育委員会内で今後検討していく。（横山 良仁 委員長）

渉外・広報委員会（委員長 森定 徹） 【資料なし】

〔事業計画〕

1. 会員へ広報を行う。
2. 他学会との会議に参加し、情報を収集・共有することによって、本学会との連携を更にレベルアップする。
3. 広報事業として、学会の存在を更に周知させるために諸団体が開催する公開講座や関連学会を積極的に後援していく。

〔報告事項〕

1. 渉外・広報委員会委員長（森定）が2024年1月12日（金曜、13:30～15:30）に開催された一般財団法人医療関連サービス振興会の令和5年度第3回衛生検査所調査指導中央委員会に副委員長として出席した。
2. 「日本臨床細胞学会の著作物の転載に関する要領」、「転載許諾申請書」について案を作成し、本学会制度審議委員会で審議をいただき認可を受けた。（2023年度第3回理事会（2023/11/3）において承認をいただいた。）
3. 外部より転載許諾の申し出があった際には、渉外・広報委員会が窓口として受付けた後に関係委員会へ振り分けを行う。

〔審議事項〕

なし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子） 【資料あり】

〔事業計画〕

1. 2026年診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚生労働省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。

〔報告事項〕

1. 令和6年2月14日に、中央社会保険医療協議会総会が開催され、改定案が答申された。  
令和6年3月5日に 厚生労働省より令和6年診療報酬改訂についての告示、通知が出された。  
臨床細胞学会から提案した医療技術の中で今回採択されたものは以下の通り。
  - ・ N004 細胞診  
婦人科材料等液状化検体細胞診加算 45点（36点から9点の増点）
  - ・ N005-4 ミスマッチ修復タンパク免疫染色（免疫抗体法）

病理組織標本作製 2,700 点

遺伝カウンセリングを行った場合には、遺伝カウンセリング加算とし

て、患者 1 人につき月 1 回に限り、1,000 点を所定点数に加算する

- ・ NO05-5 BRAF V600E 変異タンパク免疫染色 (免疫抗体法)

病理組織標本作製 1,600 点

- ・ 迅速細胞診 (検査中の場合、EUS-FNA 対象臓器の拡大) (病理学会と共同提案)

▶ 迅速細胞診は、手術、気管支鏡検査 (超音波気管支鏡下穿刺吸引生検法の実施時に限る。) 又は内視鏡検査 (膵癌又は胃粘膜下腫瘍が疑われる患者に対する超音波内視鏡下穿刺吸引生検法の実施時に限る。) の途中において腹水及び胸水等の体腔液又は穿刺吸引検体による標本作製及び鏡検を完了した場合において、1 手術又は 1 検査につき 1 回算定する。

- ・ 悪性腫瘍病理組織標本加算 (病理学会と共同提案)

- ・ セルブロック法による病理組織標本作製および免疫染色 (免疫抗体法) (乳癌 の追加) (乳癌学会と共同提案)

▶ 「セルブロック法によるもの」は、悪性中皮腫を疑う患者又は組織切片を検体とした病理組織標本作製が実施困難な肺悪性腫瘍、胃癌、大腸癌、卵巣癌、悪性リンパ腫 若しくは乳癌を疑う患者に対して、穿刺吸引等により採取した検体を用いてセルブロック法により標本作製した場合に算定する。

▶ セルブロック法による病理組織標本に対する免疫染色については、悪性中皮腫を疑う患者又は組織切片を検体とした病理組織標本作製が実施困難な肺悪性腫瘍、胃癌、大腸癌、卵巣癌、悪性リンパ腫若しくは乳癌を疑う患者に対して実施した場合に算定する。

2. 令和 6 年 1 月 10 日に 令和 6 年 1 月 10 日付で、中部審査事務センターから保険審査について、以下の発表があった。(資料)

中部ブロックにおける審査上の取扱い(ブロック取決)のご案内(令和 6 年 1 月 10 日)

[https://www.ssk.or.jp/shibu/23\\_aichi/index.files/060110\\_chubu\\_bl.pdf](https://www.ssk.or.jp/shibu/23_aichi/index.files/060110_chubu_bl.pdf)

「検査または手術で採取された同一検体(同一日採取)における組織診と細胞診の併算定は、原則として認められない。」

(DPC 病院においては細胞診断料の減点になる可能性が高い)

適応の範囲とその実態について調査を行った上で、異議申し立てを行う予定。

[審議事項]

なし

質疑

・ 都築 豊徳 理事: 乳癌の算定に関して、一度生検・手術標本等において ER/PgR/HER2 が染色してある場合は、セルブロックは算定できないのではないかと? 二重算定になってしまうのではないかと?

→採取日が違うのであれば問題ないとする。(若狭 朋子 委員長)

・都築 豊徳 理事:時期が異なっても同一患者の同一起源であれば、算定できないと思われる。

→そちらも含めて、中部審査事務センターに確認する。(若狭 朋子 委員長)

・三上 芳喜 理事:大腸癌患者における Lynch 症候群の補助診断としての MMR 免疫組織化学で、子宮内膜検体の使用の可否はどのようになっているか?

→今のところ検体は大腸癌とする制約が継続している。(若狭 朋子 委員長)

・佐藤 之俊 理事:中部ブロック保険審査の件は、中部ブロックのみ話となるのか全国の話となるのか? 文章からは、細胞診が単なる補助診断であるという誤った認識もうかがえる。

→ひとつのブロックのルールが全国に広がる傾向もあるため、早めに行動した方がよいだろう。(若狭 朋子 委員長)

・都築 豊徳 理事:管轄で保険適応が異なり、中でも東海地区はかなり厳しい。

### 地域連絡委員会 (委員長 伊藤 潔) 【資料あり】

#### [事業計画]

1. 2022 年度地域学会・連合会活動報告の回収および集計を行う。  
(締切:2024 年 2 月下旬)
2. 地域連携組織に対する活動支援について地域学会を通して行うための申請・審査を進める。

#### [報告事項]

1. 2022 年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について:
  - 1) 2022 年度報告書の提出の案内は、メールにて送付済。アンケートフォームを利用して提出をお願いしている。
2. 地域連携組織に対する助成金による支援(子宮の日)について:
  - 1) 2023 年度の活動支援の申請件数 40 件(47 件中)  
(申請なし 7 件:茨城、栃木、三重、奈良、山口、徳島、鹿児島)  
開催後、実施内容報告書を提出した地域学会に対して、5 万円を上限とした助成金の支援を行う。  
申請件数 40 件(47 件中)  
調査集計最終 内訳  
開催中止:7 件  
開催実施済:40 件  
開催実施予定・実施途中:0 件
  - 2) 2024 年度の地域連携組織に対する活動支援は、助成金 5 万円を上限とし、希望する地域学会は 2024 年 3 月末日までに、申請書を提出するように依頼する。

#### [審議事項]

なし

### 国際交流委員会 (委員長 山口 倫) 【資料なし】

## 〔事業計画〕

下記事業を本年度も継続して行っていく。

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援
2. 日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス（合同会議）のサポート
3. IAC, ECC のサポート
4. カンボジアとの交流サポート
5. 国際交流に関わる海外情報の収集および本学会からの発信

## 〔報告事項〕

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援  
第 64 回春期大会;2023 年 6 月 9 日(金)~11 日(日);名古屋 終了  
座長 ; Dr. Takayuki Enomoto, Dr. Margaret Cruickshank  
演者 ; Dr. Ida Ismail-Pratt , Dr. Jatupol Srisomboon, Dr. Koum Kanal,  
Dr. Jargalsaikhan Badarch, Dr. Hiroshi Nishio で開催済み。  
第 62 回秋期大会;2023 年 11 月 4 日(土)~5 日(日);福岡 終了  
テーマ「Morphology vs. Molecular diagnosis」  
座長 ; Dr. Tetuji Kurokawa, Dr. Koji Nishino  
演者 ; Dr. Franco Fulcinti, Dr. Uiju Cho, Dr. Chisato Ooe, Dr. Satoru Munakata,
2. 日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス（合同会議）のサポート  
<韓国>  
第 20 回日韓細胞診合同会議 ; 終了  
2023 年 9 月 2 日(土) 群山市 Gunsan Saemangeum Convention Center にて開催。佐藤委員ら  
が日本から 22 名が参加。(来年は 9/28 に釜山にて開催予定)  
<タイ>  
第 28 回日-タイカンファレンスを 2024/1/24-26 チェンマイでの開催。  
1 月 18 日に支援金 (60 万円) の振り込みを行った。
3. カンボジアとの交流サポート  
2024 年には予算の範囲内で 2-3 名招聘する予定。2025 年度まではサポート予定。  
自立のため今後の方向性を考慮していく。
4. JHU-ASC-JACC joint cytopathology course の企画運営 終了  
第 3 回 JHU-ASC-JSCC joint cytopathology course (合同ワークショップ)  
期日 ; 2024 年 1 月 20 日(土)・21 日(日)  
会場 ; 東京慈恵会医科大学内講堂  
参加者 ; 70 名越え  
岡本理事長、監事長村先生、国際委員会  
海外講師  
Syed Z. Ali  
Professor of Pathology and Radiology, Director of Cytopathology, The Johns Hopkins  
Hospital, Baltimore, Maryland, USA  
Peter B. Illei

Associate Professor of Pathology, The Johns Hopkins Hospital, Baltimore, Maryland, USA  
Johns Hopkins

Dina Mody

Director of Cytopathology at Houston Methodist Medical Center in Houston, Texas and  
Professor of Pathology and Genomic Medicine at Weill Cornell Medical College.

Derek Allison

Associate Professor, Vice Chair for Research, Department of Pathology & Laboratory  
Medicine

University of Kentucky College of Medicine, Lexington, Kentucky, Assistant Director &  
Quality Officer, Biospecimen Procurement & Translational Pathology SRF Markey Cancer  
Center

#### [審議事項]

1. 第4回 JHU-ASC-JSCC joint cytopathology course について。(第4回以降の開催継続および  
秋期大会内での開催について)

審議結果⇒承認 (JHU-ASC-JSCC joint cytopathology course の開催継続が承認された。)

質疑

・佐藤 之俊 理事：継続の検討ためには、収支や参加者へのアンケート結果に基づいて審議すべき  
と考える。

→昨日収支の最終報告を受けたところであり本日は資料として提示できないが、運営費としては  
410万円がかかっている。(山口 倫 委員長)

・佐藤 之俊 理事：当初600-700万円と見込まれていたがかなり削減できたということであり、今  
後大会の中に組み込むことによりさらに削減できるのではということか？ アンケートはどうだ  
ったか？

→そう考えている。参加者のアンケート結果は概ね好評であった。(山口 倫 委員長)

・岡本 愛光 理事長：熱のこもった素晴らしいレクチャーばかりであり、アンケート結果もほぼ全  
員が継続してほしいというものであった。今回は、会場に同時通訳機能を導入した。当初120名の  
参加者を予定していたが、実際は70名超であったことで410万円近い赤字となった。参加人数を  
増やす努力と秋期大会と組み合わせて行う方向により、より多くの方々に拝聴していただき赤字削  
減の方向に進められればと考えている。

・有廣 光司 理事：来年の秋季大会期間中に開催する準備を開始した。学会前日に単独で開催する  
ことを検討していたが、学会の中でプログラムを分散しないと難しいと考えている。現実的には開  
催方法も柔軟に変更していく必要があるのではないかと考えている。今回キャンパス内に会場を確  
保したが、大きな学会場を使用する場合には利便性の高い会場確保という点も危惧される。来年の  
秋期大会の試みを受けて開催方法等をご検討いただければと考えている。

・岡本 愛光 理事長：Ali 先生とも相談しながら、プログラムを分散する方向で、うまく融合でき  
るようにと考えている。

・岡本 愛光 理事長：カンボジアに関しては、日本産科婦人科学会も2012年から交流を始めて、約  
9年間 JICA の協力金を得て子宮頸がんの検診を導入する事業があった。しかし、カンボジアの病理

医の数が足りないことや、細胞検査士もほとんどいないということで、細胞診は全く導入できず、結局は HPV ということになり、その後コルポスコピー、LEEP というような技術を提供してきた。現在 JICA の協力も終了しており、日本産科婦人科学会も自立を促すという方向で終了となる予定である。よって、長年続いたカンボジアとの交流があるとは思われるが、実際細胞診が導入されていなかったこともあり、今後のことも検討していただきたい。自立を促していくことも必要だと考えている。カンボジアには中国やフランスがかなり入り込んできているようであり、うまい付き合い方をした方がよいと思われる。

#### 制度審議委員会（委員長 宮城 悦子） 【資料1～4】

##### 〔事業計画〕

1. 成熟した社会に則した本法人のあり方を常に考え、学会内外から広く意見、提案を聴き、必要な制度改革を提案するとともに、本法人内においては各委員会等からの制度に関するコンサルテーションを受け、必要な提案を行う。
2. 理事会、総会承認に基づく定款、細則改定の実施

##### 〔報告事項〕

1. 2023 年度第 3 回理事会にて承認された以下の項目の改定・制定を行った。
  - 定款・施行細則 p. 17 役員等選任に関する施行細則
  - 定款・施行細則 p. 37 班研究課題選考に関する施行細則
  - 定款・施行細則 p. 56 細胞検査士資格認定試験施行細則
  - 内規・申合せ集 p. 56 日本臨床細胞学会の雑誌、規約、ガイドライン、ホームページで公開された日本臨床細胞学会の成果物など、日本臨床細胞学会の著作物の転載に関する要領
  - 内規・申合せ集 p. 58 転載許諾申請書
  - 内規・申合せ集 p. 59 日本臨床細胞学会ホームページバナー広告掲載に関する申し合わせ
  - 内規・申合せ集 p. 67 日本臨床細胞学会理事候補選挙における電子投票に関する申し合わせ
2. 学術委員会より審議依頼があった定款・施行細則 p. 37 「班研究課題選考に関する施行細則」改定案について令和 5 年 11 月 14 (火) より令和 5 年 11 月 20 日 (月) にメール審議を行った。内容は資料 1 議事録参照。
3. 渉外・広報委員会より再審議依頼があった内規・申合せ集収載予定「転載許諾申請書」案について令和 5 年 11 月 22 (水) より令和 5 年 11 月 29 日 (水) にメール審議を行った。内容は資料 2 議事録参照。
4. 細胞検査士委員会より審議依頼があった定款・施行細則 p. 58 「細胞検査士資格認定試験施行細則」改定案について令和 6 年 1 月 15 (月) より令和 6 年 1 月 22 日 (月) にメール審議を行った。内容は資料 3 議事録参照。
5. 国際交流委員会より審議依頼があった内規・申合せ集 p. 61 「公益法人 日本臨床細胞学会 国際交流寄付金に関する申し合わせ」改定案について令和 6 年 1 月 30 (火) より令和 6 年 2 月 2 日 (金) にメール審議を行った。内容は資料 4 議事録参照。

##### 〔審議事項〕

なし



医療安全委員会（委員長 伊豫田 明）【資料なし】

（委員長が欠席のため、進 伸幸議長から報告がなされた。）

〔事業計画〕

1. 医療安全セミナー、感染対策セミナー開催

第 65 回日本臨床細胞学会総会春期大会

■医療安全セミナー

演題名：変動し不確実で複雑なシステムにおける安全マネジメント

座長： 神戸大学 教授 河原邦光先生

演者： 大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部 部長 中島和江先生

日時： 6月9日（日）10時50分-11時50分 予定（会期：2024年6月7日-9日）

■感染対策セミナー

演題名：次の新興再興感染症に備える ～COVID-19 から学んだこと～

座長： 近畿大学奈良病院 教授 若狭朋子先生

演者： 大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学 教授 忽那賢志先生

日時： 6月9日（日）13時30分-14時30分 予定（会期：2024年6月7日-9日）

第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会

■医療安全セミナー

演題名： 未定

座長： 未定

演者： 順天堂大学医学部人体病理病態学 青木裕志先生

日時： 未定

■感染対策セミナー

演題名：新型コロナウイルス感染症の総括 一來るべき感染症に備えて一

座長： 未定

演者： 国際医療福祉大学医学部感染症学・代表教授 松本哲哉先生

日時： 未定

〔報告事項〕

1. MSC ホットラインの活動報告

今期、MSC ホットラインへの相談実績はなかった。

2. 医療事故調査機構の情報について

日本臨床細胞学会への調査要請は今のところない。

〔審議事項〕

なし

倫理委員会（委員長 伊藤 仁）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 春期大会および秋期大会における医療倫理セミナーについて、大会長と協議の上、企画し開催する。

〔報告事項〕

1. 第 65 回日本臨床細胞学会総会(春期大会)においては山本洋一先生(大阪大学臨床研究センターセンター長)の講演を、第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会では栗原千絵子先生(量子科学技術研究開発機構)に『ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針の改訂について』の講演を予定している。

〔審議事項〕

なし

利益相反委員会(委員長 大平 達夫)【資料なし】

〔事業計画〕

1. 役員および発表者(非会員含む)の事業活動に係わる COI 状態の判断ならびに助言、指導。
2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時の調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告に関すること。
3. 利益相反自己申告書の提出依頼をする。

〔報告事項〕

1. 役員および発表者(非会員含む)の事業活動に係わる COI 状態の判断ならびに助言、指導を行う。
2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時は調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告を行う。
3. 役員および委員会委員の就任に伴い、2023 年 6 月に対象となる以下の方々より COI の自己申告を行った。今回より郵送を廃止したが、完了した。

〔審議事項〕

なし

臨床試験審査委員会(委員長 渡利 英道)(資料なし)

(委員長が欠席のため、進 伸幸議長から報告がなされた。)

〔事業計画〕

1. 臨床試験審査委員会を 1 回、春期大会時あるいはメール会議で実施します。
2. 臨床試験が提出された場合には、随時、審査を行います。

〔報告事項〕

1. 現在進行中の臨床試験は以下の通りである。

- ・ 「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」(CITRUS スタディ) (臨床試験主任研究者、青木大輔先生)
- ・ 「呼吸器細胞診報告様式に関する研究」(臨床試験責任者、中澤匡男先生) の追加試験として、日本臨床細胞学会会員による新呼吸器細胞診報告様式の観察者間の一致率および教育効果による観察者間一致率の変動の検討 (管理責任者、佐藤之俊先生)

〔審議事項〕

なし

IAC 連絡委員会 (委員長 佐藤 之俊) 【資料なし】

〔事業計画〕

1. IAC からの諸情報等について検討し対応する

〔報告事項〕

1. 第 21 回国際細胞学会 ICC2022 が第 70 回米国細胞病理学会との併催で 2022 年 11 月 15 日から 20 日まで米国 Baltimore にて開催された。次回は 2025 年にフィレンツェ (イタリア) で開催される。
2. 2024 年 6 月の ECC2024 にて IAC 理事会が開催予定。日本からのコンパニオンミーティングの要望があり、開催予定である。
3. 2023 年の CT (IAC) 試験において、受験に欠席した方へ合格通知が届いたというトラブルがあった。IAC 事務局のミスであることが判明した。今後はデジタル化が進むことによって、このようなミスは防げると考えられる。
4. IAC への入会や更新は、規約上は本学会の事務局を通すことになっているが、直接 IAC へ入会や更新手続きを行っている事例がある。このあたりの整合性について、今後検討していく。

〔審議事項〕

なし

臨床試験ワーキンググループ (委員長 進 伸幸) 【資料なし】

〔事業計画〕

1. 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』(山梨県、千葉県柏市) のデータ解析と論文発表を行う。

〔報告事項〕

1. 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』(山梨県、千葉県柏市)

進行状況：

本研究では、2013～2014 年度に研究参加した子宮頸がん検診受診者の初年度以降のデータの収

集を研究事務局、データセンター（神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センター）、EDC 管理担当（メディカルエッジ）、関係医療機関と協力して完了した。2022 年 11 月に統計解析責任者・担当者の同席のもと、症例検討会を開催し、データの固定を完了した。さらに 2023 年 5 月に統計解析計画書(3.0 版)に則った統計解析報告書(1.0 版)を受理した。現在はこの統計解析報告書をもとにデータの検討と論文化を進めている。本ワーキンググループに関してはこの検討と論文化が完了した時点での解散を計画している。

論文公表時には、研究開始当初よりホロジックジャパン株式会社より研究資金、研究資材の援助を受けたこと、本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。本研究の成果について、第 65 回春期大会（森井会長）で最終報告を行う予定である。

青木 大輔 細胞診専門医会会長・臨床試験主任研究者より、現在最終解析中であり実務担当の森定 徹 理事に発表（座長：進 伸幸 理事）していただく予定である旨のアナウンスがあった。

森定 徹 理事より、本研究に対する本学会からの支援に謝辞が述べられた。

〔審議事項〕

なし

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ（委員長 森井 英一）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 細胞診、特にセルブロック検体の作成方法の違いによる核酸の品質検討を行う。
2. ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであるが、その品質保証についての実証実験はされていない。本ワーキングでは様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証する。

〔報告事項〕

1. 指針初版の英語版が Pathobiology 誌に受理され、その内容を日韓合同細胞診会議で講演した。
2. 並行して実証実験のまとまったものをもとに指針の改訂作業計画を議論する。
3. ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであることから、その品質保証についての実証実験を行い、様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証する。

〔審議事項〕

なし

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）【資料なし】

〔事業計画〕

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの事業に協力し、追加検討に協力する。

〔報告事項〕

1. 指針の追加版について、追加検討を行っている。

〔審議事項〕

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 新たに提案した4段階の判定基準を普及するため、呼吸器細胞診報告様式に関する追加研究（教育的な効果の検討）をまとめる。論文化を進めており、近々投稿予定である。
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力する。
3. 異型細胞に関する検討を進める。

〔報告事項〕

1. IAC-WHO/IARCが進める呼吸器細胞診国際基準の出版に協力した。  
<https://tumourclassification.iarc.who.int/welcome/#>
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力した。
3. 構造異型の所見の標準化を目指し、腺癌・扁平上皮癌の細胞診断の標準化（細胞診で腺癌と扁平上皮癌を鑑別するための構造所見の定義と細胞所見）WEB公開した。
4. 異型細胞に関する検討を進めた。
5. 新たに提案した4段階の判定基準に関する検討を進めるため、呼吸器細胞診報告様式に関する研究を進め、英文論文化を進めている。

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 結果を論文発表する。

〔報告事項〕

1. 乳癌取扱い規約（日本乳癌学会）の改定に際し、掲載されるよう働きかけを行っている。

〔審議事項〕

なし

デジタルサイロロジー・AI 検討ワーキンググループ（委員長 前田 一郎）【資料なし】

（委員長が欠席のため、森谷 卓也理事から報告がなされた。）

〔事業計画〕

1. デジタルサイロロジー・パソロジーで導入状況の調査

## 2. デジタルサイトロジーを使用した診断・判定機器の調査

### 〔報告事項〕

1. デジタルサイトロジー・パソロジーで導入状況のアンケート調査中
2. デジタルサイトロジーを使用した診断・判定機器のアンケート調査中
3. 「デジタル病理画像/運用ガイドライン（仮）」合同委員会で作成中（日本病理学会、日本臨床細胞学会、日本デジタルパソロジー研究会）

### 〔審議事項〕

なし

## 公益社団法人化 10 周年記念事業検討ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）【資料 2 点】

### 〔事業計画〕

1. 理事長直属のワーキンググループにより本事業を推進する。記念誌の増補版は 2024 年度に完成する予定。また、SNS を中心に広報活動を行う。

### 〔報告事項〕

1. 下記事業を推進した。
  - ① 記念講演会・祝賀会：2024 年 4 月 28 日（日）に東京国際フォーラムにて開催する。招待者（学会等）への案内を発送し、出欠を確認中である。（日本医学会長 門脇先生、自見議員、厚労省関係者、各学会関係者が出席予定）
  - ② 記念誌の発刊：発刊は 2023 年に行った。なお、増補版は印刷体で製作する方針で、2024 年 1 月を原稿締め切りとし、執筆依頼を地域連携組織に行った。
  - ③ 広報活動：キャッチフレーズを決めること、精度管理を含めた活動を行うこと、婦人科・細胞診断とは・非婦人科領域（ゲノム診療を含めた）の柱で進めること、他学会等との連携（委員を含め）を行うこと、SNS 中心に発信すること、とした。（資料 1.2）  
岡本 愛光 理事長より、PR 会社の kushami と契約し、子供たち向けの体験型学習イベント開催、特設 Web ページの展開を行う旨のアナウンスがあった。
2. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会中に会議を開催する予定。

### 〔審議事項〕

なし

## 膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ（委員長 平林 健一）【資料なし】

### 〔事業計画〕

1. 膵癌腹腔細胞診の各施設での判定区分や検体処理方法を調査する。
2. 検者間での診断一致率を検討し、診断基準を策定する。
3. 抗凝固剤や溶血剤の細胞形態への影響を検討する。

### 〔報告事項〕

1. 2023年7月に痔瘻取扱い規約第8版が刊行され、本ワーキンググループで策定した「腹腔細胞診の実施方法」が掲載された。
2. 新規委員として富山大学医学部附属病院病理部の田近洋介技師と折田恵技師が加入し、アンケート調査や診断一致率・診断基準の策定等の計画を準備中である。

〔審議事項〕

なし

子宮がん検診精度管理アドバイザー・検討ワーキンググループ（委員長 田畑 務）【資料あり】

〔事業計画〕

1. 本邦における子宮頸がん検診について、HPV検査単独法が4月から運用可能であることが厚生労働省から認められており、子宮頸がん検診の在り方が大きく変わろうとしている。そのため、HPV検査単独法を見据えた子宮頸がん検診の精度管理が重要となり、国民の健康に寄与するがん検診を行うためのアドバイザーが必要になると推定される。現在、細胞診専門医委員会で進められている「細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）」に細胞検査士も加えて頂くことを同委員会で認められた。さらに、今後は、HPV陽性症例の細胞診を細胞検査士・細胞診専門医が診ることとなり、これまでのスクリーニングとは大きな違いが出てくる。特に、ASC-USについては、HPV陽性症例をNILMとするのに抵抗のある方々も多い。そこで、「(仮)ASC-US取扱い検討ワーキンググループ」を新たに設立し、検討することを提案する。

〔報告事項〕

1. 会議名：「細胞診専門医委員会と子宮頸がん検診について」

日時：2024年1月16日（火）19:00～20:30

会議方法：オンラインの開催

出席者：子宮がん検診精度管理アドバイザー委員会委員長、細胞診専門医委員会委員長、細胞検査士委員会委員長、渉外広報委員会委員長、精度審議委員会委員長、渉外・交渉委員会委員長、制度審議委員会委員長、情報処理委員会委員長、地域連絡委員会委員長、教育委員会委員長、理事長、副理事長、監事

HPV単独検診に関する細胞学会のかかわり方について意見交換を行った。

〔審議事項〕

1. 「細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）」に細胞検査士も加えていく  
審議結果⇒承認
2. 細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）資格認定実施に関する施行細則（案）について  
審議結果⇒承認
  - A 子宮頸がん検診の精度管理
    - 4 子宮がん検診の精度管理について理解している。  
→ 4 子宮頸がん検診プログラムの精度管理について理解している。
  - C その他（公的検診と職域検診の管理、啓蒙活動など

→ C その他（公的検診と職域検診の管理、啓発活動など  
上記の修正を含めて承認された。

#### 質疑

・青木 大輔 細胞診専門医会会長：検体検査の精度管理も大切なことであるが、検診においては検診全体のプログラムに精度管理が関わってくるため、A 子宮頸がん検診の精度管理 4 「子宮頸がん検診の精度管理について理解している。」を、「子宮頸がん検診プログラムの精度管理について理解している。」へ変更することが望ましいと考える。

→追記する。(田畑 務 委員長)

### 3. 「(仮) ASC-US 取り扱い検討ワーキンググループ」の設立について

審議結果⇒承認

#### 質疑

・森定 徹 理事：名称を、「HPV 単独検診における～」などとした方がよいのではないか。

・青木 大輔 細胞診専門医会会長：大事なワーキンググループになると思う。HPV 単独検診が広がると、トリアージ精検の陽性率も変化してくると考えられ、その推移も見守る必要がある。そこで、名称は「ASC-US の判定に関する～」や「ASC-US の判定の見直しに関する～」などの方がよいのではないかと考える。また、今回は HPV 陽性者に対して細胞診をどう判定するかというのがひとつの命題であるが、一方で細胞診で ASC-US がついた時の取り扱いも検討していくべき課題である。まずは仮称のままワーキンググループを立ち上げて、そのような課題を整理していく中で正式に名称を決定してはどうか。

→20代の方に行う細胞診での ASC-US と、HPV 陽性者における ASC-US の両者を同時に議論していく必要があると考えている。第1回のワーキンググループ開催時に、正式名称について議論して決定させていただく。(田畑 務 委員長)

### 2025 年度・2026 年度理事候補選挙管理委員会 (委員長 森井 英一) 【資料1点】

#### 〔事業計画〕

2025 年度・2026 年度役員選挙 評議員・理事選全国区・理事選地方区・理事長選挙

#### 〔報告事項〕

1. 2023 年 12 月 1 日 (金) HP に評議員選出に関して開示。およびメールにて会員に周知。  
\*申請書受付期間 2024 年 3 月 11 日 (月) ～ 2024 年 4 月 8 日 (月) 正午までに必着  
\*申請業績対象期間 2021 年 1 月 1 日 ～ 2023 年 12 月 31 日
2. 2024 年 1 月 29 日 (月) 2025・2026 年度評議員選出委員会委嘱状発送

#### 〔審議事項〕

なし

### その他

#### 〔報告事項〕

1. 今後のスケジュール (0.05\_今後のスケジュール) について進 伸幸 総務委員長より説明がな



された。一部の常務理事会・理事会日程が未定であることが事務局より説明がなされた。

2. ASC (米国細胞病理学会) で長村 義之 監事が国際功労賞 (International Achievement Award) を受賞されたことが、岡本 愛光 理事長より報告された。受賞時のビデオが供覧された。

〔審議事項〕

1. 2024年度予算案について (0.06\_2024年度予算案)

審議結果⇒承認 (山下 博 計理委員会委員長より詳細の説明があり、承認された。)

質疑

・佐藤 之俊 理事：収支相償年度別余剰金を予算に組み込むことができないことで、支出とのバランスは問題ないのか？

→中田会計事務所へも確認したが、収支相償年度別余剰金は予算に組み込むことができない。(山下 博 委員長)

→予算は収支予算ではなく損益予算となるため、積立金の取り崩しを収入に入れることはできない。(中田 ちず子 公認会計士)

2. 2024年度事業計画案について (0.07\_2024年度事業計画案)

審議結果⇒承認 (岡本 愛光 理事長より説明があり、一部追記を含めて承認された。)

・佐藤 之俊 理事：「6 その他前条の目的を達成するために必要な事業」に本日承認された3つの事項 (JHU-ASC-JACC合同細胞診ワークショップ、細胞検査士資格認定試験のあり方に関するワーキンググループ、(仮) ASC-US取り扱い検討ワーキンググループ) についても追記をするべきではないか。

→追加させていただく。(岡本 愛光 理事長)

---

以上でインターネット会議システムを併用した本理事会は、終始異状なく議題の審議を終了し、岡本 愛光 理事長の閉会挨拶をもって終了した。

2024年3月26日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 岡本 愛光



監事 長村 義之



監事 佐々木 寛



監事 土屋 眞一

